二〇二二年二月五日

女正月孫のままごと客となり　なつき
友訪ふや梅の里なる鄙の家　む　べ
春のカフェ好みのカップ選びけり　なつき
冬凪ぐといへど波よす舟屋かな　素　秀
蛸壺に水仙活けて海人の家　うつぎ
朝刊の誤植にあらず冬の蠅　うつぎ
冬服のポケット去年の覚書　よし子
冬ざれの山裾赤き一両車　よう子
白樺の幹より白し霧氷林　愛　正
超高層ビルの底ひに出初式　素　秀
部戸を潜り冬日の堂内へ　はく子

トタン屋根叩く霰に飛び起きぬ　こすもす
笹鳴きに出勤の足緩めけり　む　べ
夫の待つ駅へ凍て星道連れに　よう子
梅香る穴太積なる里の道　凡　士
魁としてさみどりの蕗の薹　わかば
探梅の道ゆきバードウォッチング　凡　士
女神像翳すもろ手に冬日燦　はく子
日の当たるなぞえに溢れ水仙花　わかば
本読みのうたた寝誘ふ春隣　む　べ

毎週句会秀句・みのる選・二〇二二年二月六日